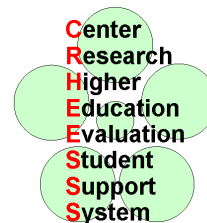


週刊センターニュース No.326



第326号(2010年9月27日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 2010年度第1回学生・学習支援研究会のご案内 ○●○

日時: 9月29日(水) 15時—17時

場所: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

テーマ: 「角間キャンパス運動施設に関する問題点の把握と対策について(屋外施設)」

企画・報告: 北浦 孝(保健管理センタースポーツ教育部門准教授)

趣旨: 最近角間キャンパスの運動施設のあり方について問い合わせの機会が多くある。これを機会にいろいろな問題点を明確にし、今後の活用方法について意見を集約し、問題解決の糸口にしてみたいと思う。角間への総合移転後徐々に老朽化が進み更新を必要とする施設がある一方、未だ移転計画の中で進行していない野球場のような施設もある。大学の運動施設は授業用・課外活動用・一般福利厚生用(学生教職員)・社会貢献用等多彩な活用が行われている。しかし、その運営は使用者自身に任されている部分が多く破損等によるケガの発生や悪天候時の練習場の不足など多くの問題点がある。今回はグラウンドやテニスコート等の屋外施設についての問題点について参加者とともに解決策も含めて議論を行う。

○●○ 2010年度大学コンソーシアム石川FDフォーラムのご案内 ○●○

日時: 10月9日(土) 13時—17時30分

場所: 金沢大学サテライトプラザ3階(金沢市西町教育研修館)

テーマ: 「初年次教育とカリキュラムポリシーについて」

趣旨: 来年4月の省令施行により、すべての大学・短大に公表が義務づけられる教育情報において注目されるのはカリキュラムポリシーである。同一名称であってもそれぞれの大学の学部・学科ごとで異なる。とくに、現在ほとんどの大学等で実施されている初年次教育がどのように位置づけられるのか、まさに各大学等の教育の特色が鮮明に現れることになる。あるべき初年次教育、学士課程教育を考える好機といえる。

日本の初年次教育研究の第一人者であり、また、同志社大学のカリキュラムポリシー策定の議論を引っ張ってこられた、山田礼子教授を基調講演者にお迎えした。参加高等教育機関からの報告を交えて、議論を深めたい。

内容: 13:10～ 第一部 基調講演

「初年次教育の進展: DP、CP、AP 明確化の流れのなかで」

山田礼子(同志社大学社会学部教授、初年次教育学会会長、大学教育学会常任理事)

14:30～17:20 第二部

報告1 「地域を舞台にした初年次教育への試み」 垣花涉(石川県立看護大学准教授)

報告2 「1年前期必須科目『大学・社会生活論』の運営と課題」 古畑徹(金沢大学教授)

報告3「初年次ゼミから始まるキャリア教育」中本義徳（金沢星陵大学教授）

パネルディスカッション 司会 青野透（大学コンソーシアム石川 FD 専門委員会委員長）

※参加申込み：件名「FDフォーラム申込」として、①機関名②所属③氏名を記入の上、
oono@ucon-i.jp（担当：大野）まで、ご連絡下さい。

○●○ 大学院教育と PFFP ○●○

大学院教育、特に博士課程における教育は、これまで研究者養成に大きな役割を果たしてきたが、大学のユニバーサル化や大学と産業界との関係が強化される中で、専門分野における高度の研究能力とともに反省的研究的に教育活動を向上・改善する能力、学生の多様性の理解をふまえて教育活動を遂行できる能力、研究倫理を保つ能力を持った大学教員の養成機能が大学院教育に求められている。2008年の中教審答申においては、「教育研究上の目的に応じて、大学院における大学教員養成機能（プレFD）の強化を図る」ことが述べられている。また、博士課程教育は社会ニーズ、職業ニーズに十分応えていないとの指摘があり、大学教員以外の多様な研究職へのキャリアパスを念頭においた博士課程教育の見直しが必要な状況にある。このような中で、PFFP (Preparing Future Faculty Programs) の開発が注目されている。PFFP は、大学教員養成とともに大学院におけるキャリア教育の機能を担う必要がある。特に、大学院生に教育を経験させることは、多様な専門職業で求められる基礎能力を育てる上で有効であり、大学ならではのキャリア教育といえるであろう。

本学では、「大学院改革による高度専門職業人（研究開発型人材）の育成」事業により大学院カリキュラム改革が行われつつある。また、自然科学研究科博士後期課程では、JST「イノベーション創出若手研究人材養成事業」として「産学連携による博士人材のキャリア形成教育プログラム」が採択され、具体的な検討が行われている。さらに、本学の第2期中期計画として【8-1】「授業の目的に応じた授業形態を多様化し、少人数教育やTA（ティーチング・アシスタント）の活用を推進する。」が掲げられている。今後、これらの取組と連動する形で、本学独自のPFFPの開発が行われることが望まれる。

8月24日に東北大学で行われた国際シンポジウム「大学教育開発とネットワーク・大学院教育の役割」では、アメリカ、イギリス、オーストラリア等、海外におけるPFFPの開発、実施の体制について報告があった。我が国では、広島大学、名古屋大学、京都大学等において、大学院におけるPFFPが開発、実施されている。本センターニュースにおいても、No.130「理系基礎教育と大学院教育としてのTAシステム～UCB、北海道大学の事例」、No.185「一橋大学社会学研究科におけるティーチング・フェロー研修について」で他大学の事例を紹介している（当センターHPに掲載中）。

アメリカでは、1993年から全米大学協会(AACU)と大学院協会(CGS)が、PFFPを始めた。専門分野ごとの学会も協力し、11分野44大学で認定プログラムが実施されている。イギリスでは、2006年以降、仮採用の新任教員に、高等教育資格課程(Postgraduate Certificate in Higher Education, PGCHE)の取得を正規採用条件としており、SEDA(Staff and Educational Development Association)が認定した大学院生向けのプログラムが17大学で実施されている。オーストラリアでも、26大学の大学院において大学教員資格認定プログラムが実施されている。

シンポジウムでは、東北大学が本年度よりPFFPの開発・実施に着手することが報告された。学内でのコースワークを経て、国内の大学での教育実習プログラムと海外大学での大学教員養成プログラムへの派遣を行う予定とのことであった。

当センターでは、引き続き国内外のPFFPについての情報収集を行う予定である。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)